

アレセア湘南

「本気」



田中大夢
(2年=投手)

入学時は最速110キロだったが現在は最速135キロにアップ。急激な成長を遂げたエース。「ストレートで押してチームをベスト16以上に導きたい」



田村剛希
(2年=遊撃手)

4番・ショートの大ブレイクプレーヤーで攻守に質の高いプレーをみせるキーマン。「勝ち上がることによってアレセアの学校名を広めたい」



岸雄大
(1年=捕手)

攻守のバランスが取れた大型捕手。打順は2番で、臨機応変なチームバッティングをみせる。「先輩たちのためにも勝利につながるプレーをしたい」



2017年秋にベスト32に進出した気鋭 東海大相模元コーチが加わり指導体制強化

2017年秋にベスト32に進出したアレセア湘南。新時代の野球は、「本気」を追求することでベスト16以上を目指していく。

■2014年夏に神奈川大会初勝利

チームは進化し続けている。アレセア湘南は2000年の男女共学化に伴い2005年に野球部が誕生。限られた環境ながらもチャレンジ続けたチームは、創部10年目の2014年夏に神奈川大会初勝利を挙げた。さらに2017年秋には春・秋を通じて初の地区予選突破を果たすと、県大会2回戦で大師に勝利しベスト32進出を果たした。きっかけをつかんだチームはさらなる進化を図ったが、2020年春からのコロナ禍によって小休止を余儀なくされた。だが環境が制限された中でも、選手たちはひたむきに努力を続けて2022年夏2回戦では厚木東に勝利。チーム

の士気は高まっている。

■野球を楽しむスタイルを継承

指導体制にも変化があった。2020年度までは武相出身の村山雄一監督が軸だったが、2021年春には、元東海大相模元コーチの宮崎大将コーチが着任。宮崎コーチは、2010年夏の甲子園準優勝メンバー。コーチとしては2021年春の選抜優勝チームに帯同していた。その春に、アレセア湘南に教員採用となり、野球部指導に携わる。チームは、野球を楽しむスタイルを継承しながら、新たなエッセンスを加えている。今年のチームテーマは「本気」。村山監督は「限られた時間・環境の練習だが、本気になることでチームは変わる。生徒たちには野球を通じて、本気の意味を理解してほしい」と話す。

■昨秋は5年ぶりに予選突破

本気になったチームは、着々と地力を伸ばす。

年間を通じたフィジカルトレーニングと補食によってチーム全体がサイズアップ。新チームは2年生7人、1年生16人だったが、秋予選で結果をつかんだ。予選ブロックは、相洋、慶応藤沢、茅ヶ崎という決して簡単ではない組み合わせだったが、慶応藤沢、茅ヶ崎に勝利して2勝1敗で2017年以来5年ぶりに予選突破。秋県大会では2回戦で相模原弥栄に屈したが、堂々の戦いをみせた。チームは、最速135キロの右腕エースの田中大夢主将、攻守の要・田村剛希(2年=内野手)を軸にじっくりと力を蓄えている。田中主将は「練習が楽しくて、春が来るのが待ち遠しい。みんなの力を合わせて、過去最高のベスト32を超えて、ベスト16以上を目指していく」と声を弾ませる。アレセア湘南は“本気のプレー”を大舞台で表現していく。



大きな手応えを感じている

「アレセア湘南は雰囲気の良いのが特長。学年の上下関係なく、みんなで切磋琢磨できるチームです。今年のチームは1年生が多いのですが、みんなに力があり、大きな手応えを感じています。過去最高のベスト32を超えて、ベスト16以上を狙っていききたいと思っています」



田沼葵(2年) 相澤凜音(1年) 朝長香帆(2年)



アレセア湘南・村山雄一監督

チームは変わってきている

「限られた時間・環境のトレーニングですが、限られた時間に何をすべきかを選手が理解することでチームが変わってきました。チームのテーマは『本気』。目標はベスト16以上。選手が同じ意識を持つことで目標が達成できると考えています」

1985年東京都生まれ。武相―関東学院大(大学時代はマネージャー)。大学卒業後、一般企業に勤務しながらアレセア湘南外部コーチ。2016年に学校事務職員となり、2016年に野球部監督就任。

アレセア湘南高校

【住所】神奈川県茅ヶ崎市富士見町5-2 【創立】1946年 【甲子園歴】なし
茅ヶ崎市にあるキリスト教信仰に則った私立学園。創立当初は共学だったが、1957年から1999年まで女子校。2000年から共学化。それに伴い野球部が誕生した。男女バスケット部が強豪。